

## 「いのちと心を育む」 標語コンクール

## 最優秀作品など9点が入選

山田町いのちと心を育む運動月間として「いのちと心を育む」標語コンクールが行われ、8月9日に開かれた審査会で応募作品の中から最優秀作品賞6点と審査員特別賞3点が選ばれました。同コンクールは、町内の児童生徒に自分の生活を振り返り、明るく楽しい日々を過ごしてもらおうと毎年開催されているもので「ネット利用」「いじめ防止」「明るい生活」の3部門に町内小中学校、高校の児童生徒から118点が寄せられました。入賞した作品は次のとおりです。

※入賞した作品9点は各学校や町中央公民館など町内各所に掲示されます。



### 審査員特別賞3作品

明るい生活部門 マスクでも 明るい笑顔で 山田高2年 篠澤 麻衣	明るい生活部門 目を合わせて 心を合わせて すてきな学校 山田小4年 昆 修助	明るい生活部門 復興で 夢がキラキラ 山田町 船越小4年 佐々木 白
---	---	--

### 最優秀作品賞6作品

小学4年生 明るい生活部門 ありがとう その言葉でまた がんばれる 豊間根小4年 木村 陽斗	小学5年生 いじめ防止部門 ぼうかん者 あなたもあの子の いじめっ子 山田小5年 福士 結衣	小学6年生 明るい生活部門 「ありがとう」 一言だけで 気持ちいい 山田小6年 佐藤 一咲	中学1年生 ネット利用部門 その言葉 本名にして 言えますか 山田中1年 千代川 葵彩	中学2年生 ネット利用部門 あとすこし どんどのまれる ネットの魔 山田中2年 広田 陸	中学3年生 いじめ防止部門 「助けてよ」 心のこえを きいてみて 山田中3年 芳賀 遼太
--	--	---	---	--	--

# 図書館だより

9

2022.Sep.

日	月	火	水	木	金	土
				1	②	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	④	15	⑥	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	⑧	29	30	

■：休館日 ○：移動図書館

## 【開館時間】

午前9時～午後6時  
※日曜日と祝日は午後5時まで

※新型コロナウイルスの感染拡大状況により、休館日や行事などを変更する場合があります。

◆問い合わせ 町立図書館(☎82-3420)へ。

## ◆移動図書館運行予定表

滞在時間 (40分程度)	運行日・場所	
	9月14日、28日	9月2日、16日
午前9時半～10時10分	県営北浜アパート	大浦漁村センター ※2日は運休します
午前10時半～11時10分	豊間根生活改善センター	船越防災センター
午後1時20分～2時	下条コミュニティセンター	田の浜コミュニティセンター
午後2時20分～3時	勤労者体育館	織笠コミュニティセンター

## 新刊図書 PICKUP

### ■一般図書

- 喜怒哀楽のお経を読む 積 徹宗著
- 実家じまい終わらせました！ 松本 明子著
- 賢治ラビリンス 金成 陽一著
- ほんとうの医療現場の話をしよう 高須賀 とき著
- 「私」という男の生涯 石原 慎太郎著
- 破れ星、流れた 倉本 聰著
- 棘の家 中山 七里著
- 信仰 村田 沙耶香著
- 児童書
- おばけのかわをむいたら たなか ひかる著
- だれよりも速く走る義足の研究 遠藤 謙著
- おひさまやのハンカチ
- すこしずつの親友 茂市 久美子作、よしざわけいこ絵  
森埜 こみち著

## 祭り関連図書の企画展

ふれあいセンター「はびね」では、祭り関連図書の企画展を行っています。この秋、読書でもお祭り気分を味わいませんか。

▷開催期間

9月19日(日)まで

### ■彬子女王殿下文庫展

祭りと地域活性化のつながりを研究されている故寛仁親王の長女彬子さまから平成24年に寄贈された蔵書と平成28年に出版された著書「日本美のこころ」などを展示します。※寄贈図書は貸し出ししませんので、館内でご覧ください。

### ■まつりだ！和背

町内や県内の郷土芸能(神楽や鹿踊り)に関する資料などを展示します。



彬子さまからの寄贈書

## ■「我が家のペット写真展」

「ふれあいセンターはびね」の利用者から提供されたペットの写真や動物の写真集、ペットの飼い方などの本の展示しています。動物が好きの人やペットを飼いたいと考えている人など、足を運んでみませんか。

▷期間 9月18日(日)まで

▷場所 ふれあいセンター「はびね」

## ■お話しじゅうたん

町内の朗読ボランティアの皆さんによる絵本の読み聞かせを行います。

▽日時 9月25日(日) 午前10時半から

▽場所 ふれあいセンター「はびね」多目的室

## 教育相談

おなやみ  
専用☎82-0783

学校や勉強のことなどで悩みがある方はお気軽にご相談ください。

▷相談日 毎週月・火・木(年末年始、祝日を除く)

▷時間 午前9時～午後4時

## 鯨峰爽やかに

「てふてふが一匹韃靼海峽を渡つていつた——」。これは安西冬衛という詩人が書いた詩である。この「てふてふ」というのは歴史の仮名遣い、別名「旧かなづかひ(以後旧かな)」で、現代仮名遣いでは「ちようちよう」と書きます▼現在出版されている本は、元々旧かなで書かれたものはほとんど現代仮名遣いに直されてゐます。ですが、先述の詩を「ちようちようが一匹——」としたのでは趣が全然違つてきます。ここはやはり「てふてふ」とした方が韃靼海峽(現間宮海峡)と対比され、活字が立ち上がつてくるのではないでせうか▼かういふことを書くとき、昔のほうが良かったと云ひたいのかとお叱りを受けさうですが、どちらの良さも認めながら場に依じて使ひこなせばいいかと存じます▼さすがに公文書では使へませんが、私的な手紙などでは旧かなを使うのも一興ではないでせうか。

教育長 佐々木 茂人